

令和 6（2024）年度 東京都立永山高等学校 学校経営計画

- 東京都教育委員会目標 スクール・ミッション
- 本校の教育目標と目指す学校
『豊かな人間性』『健康な心身』『個性伸長』
- 本校のグランドデザイン

Anniversary 50th
since 1972

永山高校魅力化プロジェクト

～ 多摩市に永高あり ONLY ONE すべては生徒のために ～
「教育内容の充実と進路実績の向上」
「地域と協働した探究学習」「国際交流」「キャリア教育」「部活動の活性化」
東京大学教養学部インターネット配信講座協定校 部活動改革パイロット校
教育データ活用実証研究校 学力向上研究校



観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策
学 習 指 導	【目標】 グランドデザインに基づいた教育課程の充実と魅力ある教育活動、進路希望のより高いレベルでの実現を目指した授業の充実化 【方策】 ○将来のデジタル教科書や、校務・採点支援システム化による IT 化、AI や ICT の活用を推進する。 ○教員の資質・能力の更なる向上のため、個人の研鑽をはじめ、オンラインでの指導教諭の模範授業、教員研修など、意図的、計画的、組織的な研修を推進する。 ○高大連携や地域と協働した探究学習を推進して地域課題解決に挑戦する創造的な「多摩市・東京都・日本・世界・地球を支える人材」を育成する。 ○多摩市教育委員会と連携し、市立小・中学校との教科間及び学校間連携などして情報の共有化及び指導と評価の内容や方法の改善を図るとともに、各教科の小中高の系統的な学習を推進する。 ○全教育活動を通じてオリンピック・パラリンピック教育を推進し国際交流など永高のレガシーを構築する。 ○TGG 活用、英検推進で国際理解と英語力向上を図る。 ○「視野の広い国際社会で活躍する人材」を育成する。 ○様々なコンクール等への参加を推進し生徒の学びと活躍を支援する。	【目標】 カリキュラムマネジメントによる魅力化の創造 【方策】 ○本校の教育課程の編成と、生徒の進路希望別履修モデルを構築するとともに、学力の 3 要素に基づいた指導とルーブリック等の観点別評価、系統的な学習や教科横断的な学習、探究学習を研究・開発し、学習の手引き「学習のしかた」の生徒、保護者への活用を図る。 ○同学年・同一科目の考查問題と教材の統一化に向けて取り組み、IT 化、AI や ICT を活用しデータを可視化して定期考査や模試等による学力の定点観測や分析会等で指導の最適化を図る。 ○朝学習や反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを定着させるとともに、学習環境整備、オンライン学習、e ポートフォリオシステムなど、生徒の主体的な学習を支援し学び方と学習習慣を定着させる。 ○図書館機能の充実化と、生徒の図書委員会や、IT 化、ICT を活用するなどして、情報教育やキャリア教育・進路学習を推進する。 ○校内及び小・中学校の授業参観、授業研究を全教員が行い、異校種相互の系統的な授業力の向上を図る。 ○国内外の高校・大学と学び合い相互交流を推進する。	【目標】 わかる授業から「自ら学びたくなる授業」へ 【方策と数値目標】 授業満足度（肯定的評価）90%以上（前年度 54%）、自己の授業を録画年 2 回以上実施 ○教育データ活用実証研究校として、教務部の進行管理のもと、教科主任会議で進路指導部や、 拡大教務部会 など学年と連携し、教育データを活用した学力分析による学力向上の取組とカリキュラムマネジメントを推進する。 ○デジタル技術を活用した意図的、計画的な教員研修、 DS の支援を受け、年 2 回以上自己の授業を録画し、相互の授業研究を行って 授業力の更なる向上 を図る。 ○教務部と各教科会で定期考査、模試、生徒による授業評価結果等进行分析し、 教科主任会議で共有するなどして授業改善・充実化と統一的な評価基準を策定 する。 ○進路希望や習熟の程度の違いに対応するため、各校務分掌と各教科の連携を密にして各生徒の学習状況と選択科目希望を共有し、模試や講習、学力向上研究校として 学びの進んだ生徒を含む永高塾 （校内寺子屋）での AI 教材の活用など 生徒の確実な学力向上 を図る。 ○地域の特色を生かした系統的な学習や、教科横断的な学習を行い、地域理解を深め、探究学習、進路学習、キャリア教育と関連させて推進する。
生活指導・健康づくり	【目標】 生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策】 ○国際交流リーディング校、海外修学旅行の実施を目指すとともに、英検上位級の取得を推進する。 ○国際交流、「次世代リーダー育成道場」、生徒及び教員の「海外派遣研修」への参加を推進する。 ○地域と連携した学校危機管理計画等の充実化を図る。 ○生徒の保健衛生、安全管理等の取組と事故防止を行い心身の健康の増進と体力の向上を図り健全育成する。 ○生徒及び保護者が入学して良かったと思い、希望の進路実現を果たし必要なスキルが身につく支援をする。	【目標】 生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策】 ○生活の手引き「生徒手帳」を活用し健全育成と国際理解、心身の健康・体力向上や、保護者の理解を図る。 ○平和学習、人権尊重、自他の生命尊重など、講話や教職員全員による統一指導により更に育成する。 ○SNS など情報モラルや規範意識の涵養と、主体性や自己肯定感など社会に必要な非認知能力を育成する。 ○生徒が主体的に取り組む体育祭を開催する。 ○生徒が主体的に取り組む文化的な永高祭を開催する。 ○転退学者等ゼロになるよう家庭と緊密に連携を図る。	【目標】 生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進 【方策と数値目標】 転退学者数ゼロ（前年度 53 名） ○生徒交流など、国際交流を推進する。 ○防災教育は生徒が主体となって企画・実施等して、市と連携した安全教育、防災教育を充実化する。 ○生活指導部及び総務保健部主導で 拡大生活指導部会 など学年や養護教諭と特別支援教育コーディネーターが SC や YSW と連携して特別支援教育・教育相談活動の充実化と、ケース会議などによる生徒のソーシャルスキルや非認知能力など自立に向けた教育を推進する。 ○生徒による指揮・伴奏による校歌斉唱をする。
進 路 指 導	【目標】 進路実績の向上 【方策】 ○生徒の進路希望の高いレベルでの実現のため、3 年間の系統的なキャリア教育の全体計画に基づいた進路学習と在り方生き方の涵養を学校全体で行い「社会的・職業的に自立した人材」を育成する。 ○予備校講師による校内研修や、オンライン学習を推進する。 ○本校の教育課程と、生徒の進路希望別履修モデルを活用し、経年の学力分析と、大学入学共通テストを含む大学進学対策などにより、都のデジタルシステムを活用した学力の向上と進路指導の改善・充実化を図る。	【目標】 進路実績の向上 【方策】 ○進路指導部主導で各学年と連携し組織的な進路指導体制のもと、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。 ○進路の手引き「進路のしおり」を活用・推進し、進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者との面談等を各学期に実施し、情報共有化する。 ○進路指導部が中心となり各教科と連携して講習や長期休業期間中の講習、自習体制を確立して組織的、計画的に学力向上を図り進路希望の実現につなげる。 ○東京大学のオンライン講座や、オープンキャンパスなど、 高大連携を推進し生徒の知的好奇心を育成する。	【目標】 進路実績の向上 【方策と数値目標】 進路決定率 100%（前年度 97%） ○進路指導部及び教務部主導により、 拡大進路指導部会 など学年と連携して、IT 化、AI や e ポートフォリオシステムを活用し外部模試の定点観測と分析を行うとともに、 長期休業期間中の組織的な講習等 により学力向上を図り、進路希望を実現させる。 ○YSW の活用と、早い時期からの意図的、計画的な進路学習を推進して生徒の進路実現を図る。 ○永高塾の活用・充実化を推進する。 ○次年度に向けて、一つの学年全員インターンシップの準備をする。
特 別 活 動 等	【目標】 特別活動等の充実化 【方策】 ○ 地域連携・地域移行 、外部指導員等を活用した部活動の年間活動計画を策定し安全を確保して活性化する。 ○生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、規範意識、リーダー性を高める。 そして、生徒会によるボランティア活動を推進する。 ○グローバル化、ボーダーレス化への対応として、国際交流を更に推進し TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) 等を活用した 4 技能 5 領域など使える英語力を育成する。	【目標】 学校行事や生徒会活動によるリーダー養成 【方策】 ○地域の社会人や専門家、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して知識・技能の伸長を図る。 ○学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営して達成感と成就感等を経験させる。 ○生徒の図書委員会を中心に、 図書館利用 と読書活動を推進して国語力や表現力を養わせ読書意欲の向上と未読率の解消を図り、書評合戦等に積極的に参加する。 ○英検・漢検・上級救命士など、資格取得を推進する。	【目標】 リーダーの養成、部活動加入率の向上 【方策と数値目標】 遅刻数減（前年度 7,395 回）、部活動加入率 85%（前年度 53%） ○部活動改革パイロット校として、部活動の 加入率を更に高めるとともに 、地域連携・地域移行を推進する。 ○生徒会役員の先進校視察・リーダー研修による国内外の他校交流で、 生徒の主体性やリーダー性を更に伸長 し、生徒や保護者へ報告するなどして還元する。 ○全国大会、世界大会レベルのコンテスト、コンクールへの応募を促進するなど 生徒の顕彰機会を推進する。
家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動	【目標】 都や市と連携した戦略的な情報発信 【方策】 ○学校広報活動を経営の第一課題と位置付け推進する。 ○都や市等と連携し本校の更なる魅力化に努め情報発信し、海外からの本校訪問生徒のホームステイ先の確保、そのほかの方法などを検討、推進して、本校への目的意識の高い生徒を獲得して応募者倍率を向上させるとともに、地域貢献、国際交流・相互交流する。	【目標】 家庭、地域との密な連携と、戦略的な情報発信 【方策】 ○マスメディアに本校の魅力ある取組の情報を提供し、地域と連帯した広報活動を推進する。 ○4 月から 11 月までを中心に、学校見学会、学校説明会、多摩市と連携した学校広報の機会や、 生徒の母校訪問 、学校運営連絡協議会等において、学校理解、学校評価をいただき本校の教育への支援を定着させる。	【目標】 IT 等を活用した戦略的な情報発信 【方策と数値目標】 HP 更新年 350 回 以上、第一志望者増 ○ホームページや、学校案内等を積極的に活用したタイムリーな情報発信で、学校広報活動と中学生、保護者、地域等への特色ある取組の情報提供を推進する。 ○授業公開や保護者会、 3 者面談等の機会 に参加者数増及び開催の周知方法や実施内容の改善を行い本校の魅力を伝える。 中高連携 3 校を中心に緊密に連携する。
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	【目標】 学校経営の適正化 【方策】 ○本校組織全体の更なる活性化を図り、経営企画室の経営企画機能高め学校経営参画を推進し教育系と行政系の職員が密に連携した学校運営や施設管理を行う。 ○OJT や校内研修をととした人材育成を推進する。 ○市と連携した危機管理体制を常に見直しマニュアル化し点検して、校内研修を意図的、計画的に実施する。	【目標】 学校経営参画の推進と組織の活性化 【方策】 ○企画調整会議や教科主任会議、 校内研修 を中心に学校経営を行い組織的な学校運営、学校経営を行う。 ○事前の校長レクや起案決裁を徹底するとともに、教員の職層に応じた OJT による校務運営を行う。 ○個人情報管理を含む校内の諸規定の再整備や、自律経営推進予算、私費会計等を適正執行し業務改善する。	【目標】 ライフ・ワーク・バランス推進による組織活性化 【方策と数値目標】 超勤時間月 80 時間以上ゼロ・45 時間以上減少、いじめや生徒事故・体罰等の 服務事故ゼロ ○教育データ活用実証研究校として、都のシステムや AI 教材の活用など、IT 化・デジタル化を推進して生徒の学力と非認知能力の向上 及び業務の効率化 を図る。 ○安全衛生委員会を中心に、ライフ・ワーク・バランス重視の勤務環境を構築する。

* 本校の学校経営や、生徒に役立つ方策等については、年度途中でも推進する。